



テンパス



TEMPUS

2023年(令和5年) **79**号



春



夏



秋



冬

和泉葛城山ブナ林の四季

も く じ

和泉葛城山ブナ林は国の天然記念物指定100周年

国指定の経緯と指定後の概要、近年の取り組み

／ 和泉葛城山ブナ林との なが〜い おつきあい

近代の引札に見る貝塚市の伝統工芸「和泉櫛」

／ 特別展「貝塚市の伝統工芸 和泉櫛ヒストリー〜つげさんのルーツを訪ねて〜」

重要文化財願泉寺表門脇のくぐり戸が壊された事件について

／ かいづか歴史文化セミナー（特別展関連イベント） 開催のお知らせ

孝恩寺の仏像 天部① 持国天

／ 「貝塚市文化財保存活用地域計画」策定の進捗状況について

第126回かいづか歴史文化セミナー講演会「木島の総社 稲荷神社の由緒と歴史」

／ 古文書を読み解く〜講座テキストから〜

文化財講座・展示・セミナー

和泉葛城山ブナ林は国の天然記念物指定100周年

国指定の経緯と指定後の概要、近年の取り組み

公益財団法人 大阪みどりのトラスト協会 石山 泰幸



ブナ林の位置関係

ブナ林は山地などの涼しい地域を代表する森林です。「和泉葛城山ブナ林」は、太平洋側の、しかも標高800メートル前後の比較的高度の低い位置に分布しており、ブナ分布の南限圏に近い場所でこのような純林が存続することに大きな価値があるとして、大正12（1923）年に国の天然記念物に指定されました。

その後、戦後から高度経済成長期を経て、周囲の森林の伐採、林道の開設、ハイキング道の拡張、キャンプ場の利用など、ブナ林をとりまく環境は大きく変化しました。昭和後期には、登山者・観光客が増加し、薪などに使う落枝を集めるためブナ林に入るキャンプ客や、林内でバイクを走らせる者も見られました。これに加えて、和歌山県側から吹き上げてくる風が林内に侵入してブナ林を乾燥させていることや、大木の枯死が増加する一方で若木が育たないことなどから、ブナ林は危機的な状態であると考えられました。

これに対応するため、昭和63（1988）年度、文化庁、大阪府、地元の貝塚市、岸和田市は、学識経験者、行政、地元教育委員会などからなる「国指定天然記念物和泉葛城山ブナ林保護増殖調査委員会」（平成5（1993）年7月～名称変更、「和泉葛城山ブナ林保護増殖検討委員会」）を組織し、ブナ林の保護と増殖のための調査が行われました。その結果に基づき、中心となる天然記念物のブナ林をコアゾーンとして保全すると同時に、周辺の森林を緩衝樹林帯（バッファゾーン）として管理しつつ、徐々にブナ林に誘導していくという基本方針が示されました。

これを受け、公益財団法人大阪みどりのトラスト協会※1が保全活動団体「和泉葛城山ブナ愛樹クラブ」※2などと連携し、保護増殖検討委員会の指導・助言のもと、バッファゾーンにおける約3,500本のブナ若木の植栽や林内若木の育成作業、ブナ個体調査・植生調査・現状記録などの各種調査、シンポジウムや観察ハイキングなどの普及啓発活動などを行い、現在に至っています。

引き続き、和泉葛城山ブナ林を適正に保全し、次世代へ確実に継承していくためには、関係者が歴史・自然・社会の各側面からその価値を共有し、長期的な視野・計画をもって事業に取り組むことが重要です。そのため、令和3（2021）年3月には、保護増殖に関する取り組みの方向性をとりまとめた「和泉葛城山ブナ林 10ヵ年計画（令和3年度～令和12年度）」※3が策定されました。同計画では、コアゾーン、バッファゾーンにおける計画的な保全管理のあり方とともに、管



コアゾーンとバッファゾーン

理体制の確立や適切な利活用の誘導など保護増殖活動のすそ野を広げるための取り組みの重要性についても言及されています。貝塚・岸和田の両市民をはじめ、関係する様々な主体が本計画を共有し、和泉葛城山ブナ林の確実な保護増殖につながることを期待されます。



※1：
公益財団法人
大阪みどりの
トラスト協会



※2：
和泉葛城山
ブナ愛樹
クラブ



※3：
「和泉葛城山
ブナ林
10ヵ年計画」

和泉葛城山ブナ林との なが～い おつきあい

貝塚市文化財保護審議会委員

和泉葛城山ブナ林保護増殖検討委員会委員

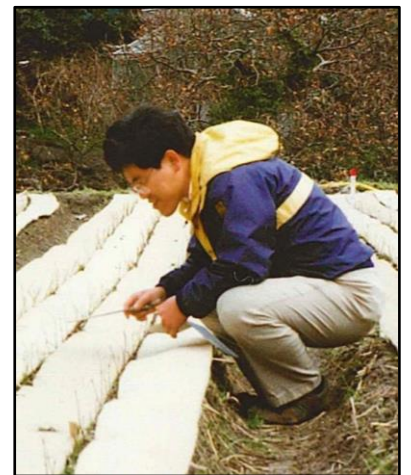
田中 ^{まさみ} 正視



小学生の頃山や自然に興味があり、泉南市の自宅から一人で和泉葛城山や大阪周辺の山によく登りました。ブナ林へは、バスで蕎原まで行き、何度も通いました。当時は、和泉葛城山周辺の山頂付近では木が生えていないところも多くあり、現在と比べると山は荒廃している状況でした。

中学、高校と興味は尽きることなく、大学では農学部林学科で学び、山岳部に所属して山登りも続けました。さらに学問を深めるため大学院に進み、教員免許を得て昭和61（1986）年に大阪府立伯太高等学校（和泉市）で生物教員となりました。そこで、大阪府高等学校生物教育研究会（昭和23年創立）に入って活動をはじめました。

当時、大阪市立自然史博物館学芸員でおられた布谷知夫（ぬのたにともお）先生（和泉葛城山ブナ林保護増殖検討委員会前会長）とは、この研究会で知り合うこととなり、新しく立ち上がった森林生態研究部会では、府内のブナ林の現況調査を生徒たちとともに行いました。現況調査は、和泉葛城山、金剛山と大和葛城山（千早赤阪村）、妙見山（能勢町）のブナの本数、太さを調べました。また、ブナの種子調査は、花芽（はなめ）の調査から、種子をトラップ（採集網）で採集するなど現在の保護増殖事業に先行した研究を実施しました。伯太高校では15年、次に赴任した泉南高等学校（泉南市）では18年勤めてその間ずっと和泉葛城山ブナ林に関わってきました。



ブナのタネを育てる田中氏
（1996年）

令和5年3月和泉葛城山ブナ林は国の天然記念物指定100周年を迎えますが、ブナ林は地元の人々により500年以上にわたってまもられてきたのです。これからも伝えていくには、地元の人々とともに事業を行うこと、ブナ林についてもっと広く知ってもらうこと、蓄積した気温などの基礎データを活かした保護増殖の取り組みを行うこと、ブナ専門分野以外の研究者とも連携していくことが必要と考えています。

（この記事は、社会教育課職員が聞き手となり、文章化したものです）

8 頁に和泉葛城山ブナ林の国天然記念物指定100周年記念事業を紹介しています。

ひきふだ いずみぐし 近代の引札に見る貝塚市の伝統工芸「和泉櫛」

貝塚市郷土資料展示室（貝塚市民図書館2階）では、令和5年3月8日（水）から4月23日（日）にかけて、特別展「貝塚市の伝統工芸 和泉櫛ヒストリー～つげさんのルーツを訪ねて～」を開催します。この特別展では、市のイメージキャラクター「つげさん」のモチーフになっている伝統工芸「和泉櫛」（つげ櫛）に関する様々な資料を展示します。

今回は、上記特別展の展示資料の中から和泉櫛に関する近代の引札2点（いずれも摂河泉文庫所蔵資料）を紹介します。引札は、江戸時代から、明治、大正時代にかけて商品や店舗の宣伝のために作られた広告チラシで、当時の商業活動や世相等を知る歴史資料であるとともに、独特の色合いや大胆な図柄から美術品としても価値の高い印刷物として知られています。今回紹介する引札は、いずれも小間物（こまもの）の町として知られる大阪の南久宝寺町に店を構えていた貝塚市域出身の商人が作った引札です。

「伊勢徳松」店の引札 中央に大きく描かれた扇子に「万（よろず）木櫛卸商并ニ（ならびに）鏡るい」、「大阪南久宝寺町井池（どぶいけ）角〈商号〉伊勢徳松」と書かれています。櫛は描かれていませんが、様々な木櫛を取り扱う卸商であったことが分かります。右下にロシア人風の男性の姿が描かれていることから、日露戦争（1904-05年）前後に配られたものと考えられます。



「要弥三郎（かなめやさぶろう）本店」の引札 南久宝寺町二丁目で「ひしや櫛」という商品名で「本つげ櫛」・「すき櫛」を製造販売する商店であったことが分かります。日本髪を結った女性が描かれ、左手には両歯の解（と）き櫛を、右手には半円形の解き櫛と柄の長い筋立（すじたて）を持っています。左端に「於（において）平和記念博覧会銅牌（どうはい）受領」とあることから、大正11（1922）年に東京で開催された博覧会后に配られたものと考えられます。



明治、大正時代に生産された和泉櫛は、約7割が大阪市内で販売されたことが分かっています。今回紹介した引札を作った商人らの手によって、様々な種類のある和泉櫛が広く流通していたことが想像できます。

貝塚市郷土資料展示室特別展

貝塚市の伝統工芸 和泉櫛ヒストリー

～つげさんのルーツを訪ねて～

和泉櫛（つげ櫛）の特長やその歴史について関係資料を展示します。

※新型コロナウイルス感染拡大に伴い期間短縮した令和元年度特別展を再度開催します。

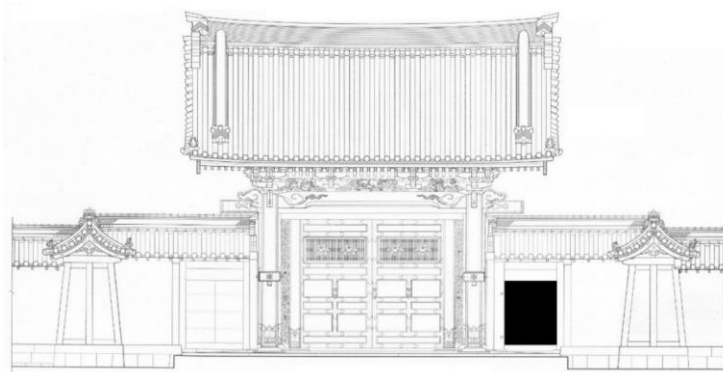


会 期 令和5年3月8日（水）～4月23日（日）
場 所 貝塚市郷土資料展示室（貝塚市民図書館2階）
観覧料 無料
休室日 火曜日、3月22日（水）、31日（金）

重要文化財願泉寺表門脇のくぐり戸が壊された事件について

新聞記事やニュースでご存じの方も多いと思いますが、昨年（令和4年）の10月3日（月）午後11時頃、本市中町（貝塚寺内町地域）にある願泉寺において、国の重要文化財に指定されている表門の脇にあるくぐり戸が壊される事件がありました。近所の方が大きな物音を聞き、ご住職が現地を確認されたところ、くぐり戸の戸板が破られていたということです。貴重な重要文化財を傷つけることは、文化財保護法違反として重い刑罰が科される心無い行為であり、これまで大切に守ってこられたご住職や関係者、地域住民の方々の落胆を思うと強い憤りを覚えます。

大変残念なことに、文化財を傷つける事件は後を絶ちません。近年、文化財に油のような液体をかける事件が立て続けに起きたことはまだ記憶に新しいところです。文化財の所有者、管理者は、防犯カメラの設置や巡回警備の強化などに取り組んでおられますが、こうした対策だけでは事件を完全に防ぐことはできません。私たち一人一人が文化財を大切にする気持ちをもつことがなによりも重要です。このような事件が二度と起こることのないよう、改めて文化財保護へのご理解とご協力をお願いする次第です。



表門の図面（くぐり戸は黒色部分）



割れたくぐり戸の戸板（事件翌日）
※現在は仮修理をされています。

かいつか歴史文化セミナー（特別展開関連イベント）開催のお知らせ

○第127回 講演会「貝塚市の伝統工芸 和泉櫛ヒストリー」

- ・日時 3月25日（土）午後2時～3時30分
- ・会場 貝塚市民図書館2階視聴覚室
- ・講師 市川秀之氏（滋賀県立大学人間文化学部教授）

○第128回 現地見学会「和泉櫛とつげさんのルーツを訪ねて」

- ・日時 4月15日（土）午後1時30分～4時
- ・行程 **集合**南海二色浜駅→澱池（とどのいけ）→沢薬師堂→（紀州街道・八品神社参道）→八品神社（トイレ休憩）→つげ櫛工房 辻忠商店→二色の浜公園→南海二色浜駅**解散**
- ・案内 社会教育課職員



申込・問合せ先 〒597-8585 貝塚市畠中1丁目12-1（貝塚市民図書館2階）

社会教育課郷土資料室 TEL 072（433）7205 / FAX 072（433）7053

Eメール shiryoushitsu@city.kaizuka.lg.jp

孝恩寺の仏像 天部① 持国天

木積（こつみ）の孝恩寺には、平安時代制作の20軀（く）の仏像（彫刻）が安置され、うち19軀が国の重要文化財に指定され、1軀が市指定文化財に位置付けられています。今回はその中から持国天立像を紹介します。

【貝塚市指定文化財】木造 持国天立像 1 軀

時代 平安時代前期（9世紀）

像高 142.4cm

指定年月日 平成11（1999）年9月20日

持国天は、もともと古代インドの神でしたが、後に仏教に守護神として取り入れられ、四天王（してんのう）の一尊として東方を守る守護神となりました。

本像は、カヤ材と思われる木材による一木造（いちぼくづくり）の像で、当初は彩色仕上げの像であったと考えられます。中国風の甲冑（かっちゅう）を装着しているものの持物（じもつ）が失われていることから他の天部像の可能性もありますが、孝恩寺では持国天として信仰されています。全体に太く奥行きのある印象や、太い眉に大きな彫眼（ちょうがん：木を彫り出して表した目のこと）を持つ顔の造形等から、平安時代前期（9世紀）の作と考えられています。



「貝塚市文化財保存活用地域計画」

策定の進捗状況について

本紙77号でお知らせしたように、貝塚市では今年度より「貝塚市文化財保存活用地域計画」（以下、地域計画と略します）の策定に着手しました。



まず地域計画策定の審議機関として、有識者や文化財の所有者、商工・観光関係団体関係者、市職員で構成する「貝塚市文化財保存活用地域計画策定協議会」を設置しました。令和4年12月13日（火）には第1回会議を開催し、今後の審議内容・スケジュールの確認を受けました。また、同月16日（金）には、文化庁より地域計画のアドバイザーとして京都府立大学文学部の菱田哲郎教授が来られました。菱田氏には貝塚寺内町をはじめとする市域の文化財視察の後、地域計画策定に関する貴重な助言をいただきました。

現在実施している主な作業は2つあります。ひとつは文化財リストの作成です。地域計画を策定する上で、市域の文化財の全容を把握する必要があるため、文化財調査報告書などを調べ、未指定・未登録の文化財も含めたリストを作成しています。もうひとつは文化財所有者アンケートです。文化財を保存・継承する上での課題を把握するため、所有者にアンケート調査を実施しました。調査結果を分析し、地域計画の内容に活かしていきたいと思っています。

令和5年度からはいよいよ地域計画の具体的な内容について検討していきます。

第126回 かいづか歴史文化セミナー

きしま そうじゃ

講演会「木島の総社 稲荷神社の由緒と歴史」

令和4年11月23日（水・祝）に、第126回かいづか歴史文化セミナー講演会「木島の総社 稲荷神社の由緒と歴史」を、森町会館において開催しました。今回のテーマは、本市森にある稲荷神社の由緒と歴史について、平成27（2015）年にこの神社で実施した古文書調査の結果をもとに報告しました。



講演を聞き入る参加者のみなさん

講演会の冒頭では、前提となる木島の範囲の変遷を確認しました。木島は平安時代から鎌倉時代にかけては「木島郷（きのしまごう）」と呼ばれ、現在の貝塚市北東半分と隣接する岸和田市土生（はぶ）・河合に及んでいたと推定されています。その後、木島郷から麻生郷（あそごう）が分離独立するなど、室町時代以降、旧木島村（清児（せちご）・名越（なごせ）・森・三ツ松（みつまつ）・水間）の範囲にまで縮小していきました。稲荷神社の由緒は、地元に残る「神社誌」という記録によると、稲荷大神（いなりおおかみ）が和銅2（709）年、京都伏見の稲荷山に鎮座したことを始まり（伏見稲荷大社では和銅4（711）年の伝承）とし、本市森には建保6（1218）年に木島郷の氏神としてお祀（まつ）りしたと記されています。また、明治41（1908）年に木島村にあった神社が稲荷神社に合祀され、今となっては見つけることが難しい神社跡について、地字（ちあざ）や地番が記載された史料から場所を特定し、作成した地図をあわせて紹介しました。

参加者の方からは「今まで稲荷神社の歴史を知る機会がなく、今回聞けて良かった」、「稲荷神社のルーツがわかった」とのご感想をいただきました。

古文書を読み解く～講座テキストから～

江戸時代において、地頭（領主）として貝塚寺内を治めてきた願泉寺ト半（ぼくはん）家は、慶応4（1868・明治元）年1月3日から始まった戊辰戦争を契機に大きな変化を余儀なくされます。支配体制は、江戸幕府から明治政府に移ったため、ト半家は幕府によって認められてきた貝塚寺内の領主としての地位を失うことになります。



願泉寺文書にある「御一新ニ付献米之記・弁事御役所江御朱印差出記」（写真）によると、慶応4年1月17日に「此節京都近国之寺社迄身分相応之米金追々献上相成候間、手後レ相成候而ハ不宜」とあり、京都やその周辺の国々の寺社はその規模に応じて献金・献米を行っていて、手遅れとならないようにと伝えています。そのため願泉寺でも、関わりの深い公家の富小路（とみのこうじ）家などと相談し、1月23日に玄米50石（125俵）を金穀御役所へ納めたことが記されています。さらに4月、海岸防御のためとして、硝石をまとめて1000斤（600kg）、その後毎年100斤ずつ献上することを申し入れています。

この古文書の詳細は、古文書講座69「戊辰戦争と貝塚寺内の支配」にて解説します。

文化財講座・展示・セミナー

令和5年

◆ 3 月

8日・15日・29日の水曜 午後1時15分～3時45分

古文書講座69 **1班** ※申込受付を終了しています。

「戊辰（ぼしん）戦争と貝塚寺内の支配」

10日・17日・24日の金曜 午後1時15分～3時45分

古文書講座69 **2班** ※申込受付を終了しています。

「戊辰戦争と貝塚寺内の支配」

25日（土）午後2時～3時30分

第127回かいづか歴史文化セミナー 講演会

「貝塚市の伝統工芸 和泉櫛ヒストリー」  **4 頁**

◆ 4 月

5日・12日の水曜 午後1時15分～3時45分

古文書講座69 **1班** ※申込受付を終了しています。

「戊辰戦争と貝塚寺内の支配」

7日・14日の金曜 午後1時15分～3時45分

古文書講座69 **2班** ※申込受付を終了しています。

「戊辰戦争と貝塚寺内の支配」

15日（土）午後1時30分～4時

第128回かいづか歴史文化セミナー 現地見学会

「和泉櫛とつげさんのルーツを訪ねて」  **5 頁**

郷土資料展示室

3月8日（水）から

特別展

「貝塚市の伝統工芸
和泉櫛ヒストリー
～つげさんの
ルーツを訪ねて～」

 **4 頁**

4月23日（日）まで

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、上記イベントは開催延期・変更・中止となる場合があります。ご理解をお願い申し上げます。

和泉葛城山ブナ林は国の天然記念物指定100周年

● 3月4日（土）午前10時～正午

和泉葛城山の自然とブナ林を紹介する会

岸和田市立福祉総合センター大会議室（3階）

申込は不要、参加費は無料です。

● 3月21日（火・祝）13時～15時 ※雨天の場合は3月26日（日）

ブナ苗木の植樹会

に延期

和泉葛城山山頂広場（神社下、トイレの近くの広場）

申込は和泉葛城山ブナ愛樹クラブ

Email: bkcdy107@rinku.zaqa.ne.jp もしくは Tel(090)7103-4615（山條）



かいづか文化財だよりテンプス79号



令和5年3月1日発行

貝塚市教育委員会

〒597-8585 貝塚市島中1丁目17-1

Tel(072)433-7126 Fax(072)433-7053

Email: shakaikyoiku@city.kaizuka.lg.jp

※テンプスとはラテン語で「時」を意味します。

年3回発行:各1,000部



貝塚市イメージ

キャラクター

つげさん

貝塚市特産品「つげ櫛」をモチーフとしたデザイン。